

日 付 2月14日(水)～15日(木)
場 所 九州歴史資料館
内 容 独立行政法人国立文化財機構「文化財
防災ネットワーク推進事業」文化財防災
ネットワーク構築のための調査・情報取
集について
担 当 甲斐 由香里(保存科学)

日 付 2月15日(木)
場 所 福岡市科学館
内 容 全国科学博物館協議会
研究発表大会への参加
担 当 山口 均(理工)
山口 瑞貴(植物)

日 付 3月7日(水)～8日(木)
場 所 ミュージアム知覧
知覧特攻平和会館
内 容 近現代紙資料の保存に関する知識及び
取扱い技術講習会
担 当 甲斐 由香里(保存科学)

(4) 熊本県博物館連絡協議会

平成27年度6月より、熊本県立美術館から当館が
事務局を引き継いだ。加盟館は42館。

ア 総会

日 時 6月28日(水) 13時～
場 所 御船町役場 3階大会議室

イ 専門研修会

日 付 11月29日(水)
会 場 熊本市塚原歴史民俗資料館
内 容 熊本地震により被災した塚原歴史民俗資
料館での資料修復や再オープンまでの復
興状況の講話。また、美術品輸送を執
り行う日本通運株式会社九州美術品事
業所スタッフによる資料保管・輸送等に
伴う梱包方法についての実技を含む講習
会。

参加者 県内の博物館・美術館職員等、24名。

6 調査・研究

(1) 基本的な考え方

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものであり、当館の基本構想および理念を基本とし、次の点に留意して行う。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

(2) 調査・研究の目標

ア 館共通

熊本県の歴史と自然および科学技術についての研究を行う。

(ア) 分野別

【地質分野】

熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。

【動物分野】

熊本県内の動物分布に関する調査を行う。

【植物分野】

熊本県内の植物分布に関する調査を行う。

【理工分野】

楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体感できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野の企画等について調査・研究する(先進都市などの手法を参考にしながら)。

【考古分野】

熊本県内の埋蔵文化財に関する調査・研究を行う。また、寄贈されたコレクションについては、県外の資料についても調査・研究を行う。収蔵資料の多くは未整理なので、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者などに、幅広く活用いただくことを目的とする。

【民俗分野】

当館所蔵の資料整理ならびに展示をすすめ、市民や来館者に新たな情報を提供することを目的とする。

【歴史・美術工芸分野】

当館所蔵資料の調査・整理を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究をすすめ、市民や来館者への情報提供、展示に活用するための準備に努める。

【保存科学分野】

館内環境を調査し、展示品や収蔵品に適切な状態を保つことを目的とする。また、資料の修復などについて担当学芸員と相談の上、適切な処置の方法を考える。

(イ) 平成29年度調査・研究の目標および活動

【地質分野】

- ・館蔵地質資料の整理・再調査。
- ・金峰山山系の岩石露頭調査。
- ・上益城郡益城町堂園地区での布田川断層地層剥ぎ取り。

平成28年熊本地震にて最大2.5mの水平変位を記録した地点(後の平成30年2月13日に国指定天然記念物に指定)のトレンチにて地層の剥ぎ取りを行った。トレンチ調査を主導した益城町教育委員会、広島大学、熊本大学や、剥ぎ取り作業の際にかけつけていただいた熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナークラブの協力により、2m×2mの断層剥ぎ取り標本2点が得られ、1点は益城町教育委員会、1点は当館に保管している。

【動物分野】

金峰山山系および江津湖の動物相調査

【植物分野】

金峰山および江津湖を中心としたリニューアルに向けた資料の採集・調査。

【理工分野】

子どもの心の中に「不思議のタネ」をまくための科学実験・科学工作等の開発・充実。

小中学校の授業に活用できる学習プログラムや教材・教具等の開発・改善。

【考古分野】

リニューアル後に展示予定の遺跡・遺物に関連した資料整理・資料調査・相手方との協議など。

【民俗分野】

リニューアル後に展示予定の当館所蔵資料の整

理・調査および、藤崎八幡宮例大祭をはじめとする民俗映像の撮影など。

【歴史分野】

リニューアル関連業務として他館・他機関所蔵の波奈之丸関連絵図の調査。

その他、資料寄贈受け入れに伴う諸調査など。

【美術工芸分野】

熊本地震による被災文化財相談への対応。

【保存科学分野】

被災資料の応急処置や、その後の経過観察を継続中。

リニューアルに伴う博物館収蔵資料の演示・搬入作業スケジュール調整や仕様について各担当者と協議を実施。また、博物館内や資料保管場所の温湿度・空気質等を測定し、年間を通じての動向を調査・比較。

平成29年度 熊本博物館活動概況

	特別展・企画展	共催展	行事・イベント・教室	館外活動 派遣授業	講座・同好会	共催事業
地質		第9回「地質の日」 企画「身近に知る 『くまもとの大地』」 (5/14) 約400名		派遣授業：2プログラム実施		熊本県博物館 NC 共 催講座「金峰山の地 質」(7/2 19名)(9/3 18名)(11/5 14名) (1/21 18名) (3/24 13名)
動物				派遣授業：3プログラム実施		
植物		肥後朝顔涼花会 秋の展示会 (9/2,3)	塚原歴史民俗資料館 野外博物館 (4/6、 11/3)	派遣授業：2プログラム実施		
理工			子ども科学・ものづく り教室 (25教室開催) 「液体窒素実験ショー」 「おもしろ実験・工作 に挑戦!」「水中 UFO キャッチャー」「紙パッ クカメラ」他、901名	派遣授業：4プログラム実施		未開催 (リニューアル 後に再開予定①テク ノサイエンスキッズ： 熊本高専②科学の広 場：崇城大学等)
天文				派遣授業：2プログラム実施		
考古						
歴史 美術工芸						
民俗						
保存科学				派遣授業：1プログラム実施		

関係団体	その他教育普及	相談件数・報道対応	資料取扱	資料管理	調査研究
「地質の日」 くまもと実行委員会	○「地質の日」体験イベント(5/14 220名) ○ミュージアムキッズ・全国フェア in 装飾古墳館(6/17 285名) ○託麻公民館講座(8/22 12名) ○北部公民館おでかけ公民館講座「地層観察会」(11/14 約60名)	報道対応 2件 相談件数 23件	特別利用 2件 資料貸出 1件	データベース入力 5件	・布田川断層露頭剥ぎ取り
	○総合的な学習(清水小5年生 7/5 91名, 画図小4年生 7/12 173名, 湖東中1年生 9/20 20名) ○熊本市ふれあい文化センター主催教養講演会(5/11 30名) ○熊本県農林水産部主催講演会(7/10 90名) ○小島地域資源保全隊主催観察会(8/4 28名) ○北部公民館西里分館主催親子学習会(8/11 28名) ○九州国有林林業生産協会主催講演会(9/4 179名) ○水の科学館水辺散策会(9/18 36名) ○託麻公民館主催講座(10/6 14名) ○河内公民館主催野外観察会(1/20 18名)など	報道対応 約10件 相談件数 約30件	寄贈資料 1件	データベース入力 56件	・江津湖の動物相調査 ・金峰山山系の動物相調査 ・熊本県内の魚類相調査
肥後朝顔涼花会	○総合的な学習 宇土中学校1学年(12/14) ○わくわくえびっこ塾(1/28)	報道対応 2件 相談件数 9件	寄贈資料 4件 特別利用 1件 資料貸出 1件	データベース入力 21件	・江津湖周辺の水生植物相調査 ・金峰山周辺の植物相調査
熊本市ものづくり サークル	○ミュージアムキッズ・全国フェア in 装飾古墳館(6/18 378名) ○川上小学校学童クラブ活動(8/2 30名) ○植木小学校学童クラブ活動(8/23 70名) ○隈庄小学校1学年PTA活動(12/10 200名) ○中央公民館講座(9/23 40名) ○清水公民館講座(11/26 35名) ○森都心プラザ図書館「液体室素実験ショー」(2/25 91名) など	報道対応 約10件 相談件数 約10件	資料貸出 1件		・自然科学の原理などを学ぶことのできる体験的プログラムの研究・開発 ・興味・関心、問題解決能力を高める教材開発 ・リニューアル後の館内学習支援プログラムの策定
		報道対応 6件 相談件数 25件			
考古学同好会 肥後考古学会		報道対応 約10件 相談件数 約20件	資料貸出 5件 特別利用 6件		・リニューアル後に展示予定の遺跡・遺物に関連した資料整理・資料調査
永青文庫 熊本城顕彰会 島田美術館	○現代美術館講演会(5/27 約40名)	報道対応 6件 相談件数 20件	寄贈資料 11件 資料貸出 3件 特別利用 42件	データベース入力 10件	・収蔵刀剣調査 ・東陵永興肖像調査 ・リニューアル展示関係資料調査
	○「九州学」(大学公開授業) 別府大学公開講座(9/25 150名)	報道対応 4件 相談件数 20件	寄贈資料 1件	データベース入力 1件	・リニューアルに使用する民俗資料の整理及び映像(藤崎宮例大祭等)の撮影 ・塚原歴史民俗資料館の民具資料の修理助言
		相談件数 30件			・リニューアル後の館内環境調査

Ⅱ. リニューアルの概要と経緯

1 リニューアルに至るまで

昭和53年(1978)の移転開館から、今年で40年が経過した。その間、当館では多くの資料を展示・保管してきたが、建物や施設・設備等が老朽化し、収蔵環境の改善や収蔵スペースの拡張が必要不可欠な状況になってきた。

平成16年度(2005年3月)に当館の敷地が特別史跡・熊本城跡の一部に追加指定されたことは特記事項であり、熊本城に関わる展示の充実が以前にも増して求められるようになった。また、熊本城天守閣(平成30年3月末まで当館の分館)内に展示されていた国指定重要文化財細川家舟屋形の展示・保管環境の改善及び、リニューアル後の熊本博物館への移築構想が立ち上がった。

こうした情勢と相まって、国宝・重要文化財の展示が簡便な手続きで実施できる「公開承認施設」を目指しながら、人文科学系と自然科学系が両立する総合博物館として、展示内容の更なる充実を図る必要性・期待感が高まってきた。

2 リニューアルの基本理念と空間構成

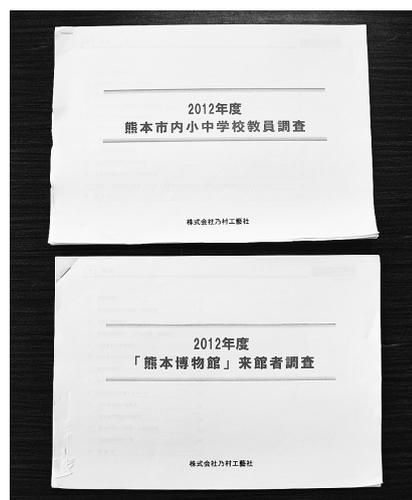
外部有識者や公募委員等で構成された基本計画策定委員会によって熊本博物館リニューアル基本構想が練られ、リニューアル後の博物館基本理念と展示テーマが決定された。

「広域情報型博物館」「市民開放型博物館」「郷土立脚型博物館」「人間密着型博物館」という開館当初からの基本理念は、博物館のこれまでの運営経験や実績、博物館に求められる役割の変化などをふまえ、現代的な視点で再構築しつつ継承していくこととなった。そして、「未来へつなぐ 熊本の記憶 ― 集める・伝える・創造する ―」を展示テーマとした(詳細は『熊本博物館リニューアル基本構想・基本計画平成24年3月熊本市教育委員会』に記している)。



また、リニューアルを進めるにあたり、以下のような調査・設計を専門業者に委託して行った。

まず、顧客・学校教員・当館スタッフを対象に、三者の視点から現状把握に努めた。具体的には、①来館者のプロフィール②来館前のイメージ・期待度③来館後の印象・満足度の3つの観点でアンケート調査を実施した。その後、回答を集約して結果を分析し、来館者のターゲット像・発信すべきメディアのタイプ・コミュニケーション内容等を明らかにした(詳細は「2012年度『熊本博物館』来館者調査」「2012年度『熊本市内小中学校教員調査』」にまとめた)。

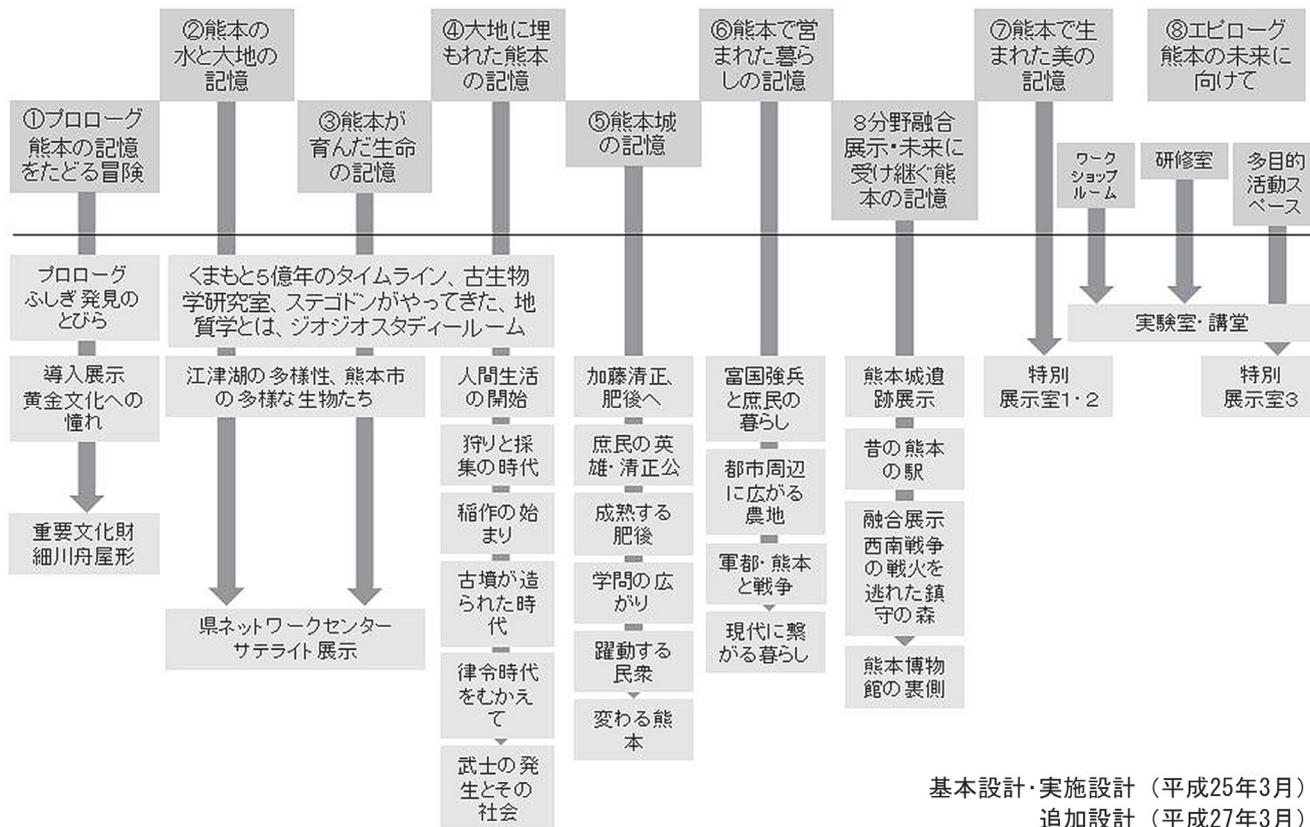


アンケートで寄せられた意見や調査の分析結果をふまえ、従来の展示に関する問題点(ケース内の照明等)の改善を図るべくリニューアル後の空間全体構成(展示シナリオ)を作成していった。

リニューアル後の空間全体構成(展示シナリオ)

※ 外部委員による策定委員会ではされた基本構想・基本計画をもとに、基本設計・実施設計さらに追加設計で具現化し、博物館協議会に諮った。

基本構想・基本計画(平成24年3月)



基本設計・実施設計 (平成25年3月)
追加設計 (平成27年3月)

3

リニューアルまでの経緯

昭和53年

- ・新館が現地（古京町）にて開館（新築移転）

平成3年度

- ・老朽化に伴うプラネタリウム機器の更新

平成4年～平成14年度

- ・学校週5日制への移行期
- ⇒子どもの豊かな体験や学習の場を提供する社会教育施設として博物館が再認識される

平成8年度

- ・阪神・淡路大震災を受け、博物館施設・設備の総合診断調査
- ⇒施設の老朽化などが課題となる

平成9年度

- ・『博物館改修設計』（黒川紀章建築都市設計事務所）を作成

平成9年～平成13年度

- ・展示の一部リニューアル（理工展示物に関する5ヶ年計画）

平成10年度

- ・熊本市情報公開条例を受け、熊本博物館ホームページの作成を計画

平成10年～平成11年度

- ・外壁・内装・空調・衛生・電気等の改修工事
- ⇒収蔵展示室を研修室に改装

平成11年度

- ・子どもの居場所づくりの一環として「子ども科学・ものづくり教室」を開始
- ⇒実験室・講堂等、開催空間設置の必要性

平成17年度

- ・熊本城復元整備計画に準じて、熊本博物館の敷地も特別史跡の追加指定を受ける

平成18年度

- ・情報システム（ホームページ、資料登録管理、来館者用資料映像等）の導入

平成20年度

- ・鹿児島市・熊本市・福岡市交流連携協定（平成29年度より北九州市が加わり四市交流連携）
- ⇒資料借用能力の強化に向け、公開承認施設を目指す
- ・九州新幹線の全線開通に併せ、プラネタリウムの全面リニューアルを検討
- ⇒国土交通省「まちづくり交付金」対象事業に位置付ける
- ⇒プラネタリウム室にステージを設置、周辺案内番組等の作成を行う

平成21年度

- ・熊本市重要政策検討会議に熊本博物館リニューアルが議題にあがる
- ⇒特別展示室のリニューアルを目指す
- ・プラネタリウムの投映を一時休止し（閉室）、室内及び機器のリニューアル工事を実施
- ・九州新幹線全線開通に併せ、熊本博物館分館（熊本城天守閣）のあり方について検討委員会を設置
- ⇒「細川家舟屋形」及び永青文庫等の資料展示についての見直し
- ⇒本館・分館の展示施設及び職員（保存科学・美術工芸）の充実を目指す

平成22年度

- ・プラネタリウム室及び機器のリニューアル
- ・熊本博物館リニューアル検討委員会
- 『熊本博物館のリニューアルに関する検討結果について』の策定
- ⇒プラネタリウム室を除く、全館リニューアルを目指す

平成23年度

・熊本博物館リニューアル基本構想及び基本計画策定委員会

『基本構想及び基本計画』（丹青社）の策定

⇒体験空間（実験室・講堂等）の設置や細川家舟屋形の移築、国指定重要文化財や永青文庫資料等の展示に適した公開承認施設を目指し、増床計画を立てる

・保守契約期間の終了に伴う情報システムの更新を計画

⇒リニューアルに併せて実施

・東日本大震災の影響を基に建築基準等が後に変更される

⇒資料運搬用リフトの見直し

平成24年度

・『基本設計・実施設計』（乃村工芸社）の作成

⇒増床のため「杭打ち工法」を採用、情報システムの基本設計を行う

・マーケティング調査（来館者調査・熊本市内小中学校教員調査）の実施

・「縣市連携による展示に関する協定」を結ぶ

⇒県収蔵品の展示エリア設置を決める

・文化庁（美術学芸課）及び東京文化財研究所との協議開始

・公開承認施設に向けた職員（美術工芸・保存科学）の充実へ

平成25年度

・リニューアルに向け、一時休館へ（7月～）

・文化庁（記念物課）との特別史跡に関する協議

・当該事業を国土交通省「都市再生整備事業（社会資本整備総合事業）」に位置付ける

⇒追加設計費用及び工事費等が対象になる

平成26年度

・本館の部分開館（プラネタリウム室及び特別展示室のみ）

・館内の確認調査（発掘調査）

・『基本設計・実施設計の追加設計』（乃村工芸

社）の策定

⇒特別史跡の保護を目的に、増床部分の工法を杭打ち工法から「床盤工法」に変更。同様の理由でエレベーターも見直し。

・情報システムのサーバのみ更新

平成27年度

・館内の発掘調査

・再度休館後、リニューアル工事開始

・消防署との事前協議

⇒プラネタリウム排煙機等の追加工事

・文化庁（美術学芸課）との協議

⇒公開承認施設に向け、縣市連携展示エリアの展示内容・方法調整

平成28年度

・熊本地震によるリニューアル工事の中断

・本館躯体調査

⇒補強工事・外壁改修工事等の追加工事

・情報システムの発注

・熊本地震に関する対応について、文化庁（美術学芸課）及び東京文化財研究所と協議

平成29年度

・被災した展示ケースの修理

⇒文部科学省「公立社会教育施設災害復旧補助関係」に位置づける

・リニューアル建築工事竣工（8月）

・細川家舟屋形の解体及び熊本城天守閣からの当館資料搬出作業

・リニューアル展示業務（委託工事）完了（平成30年2月）

・情報システムの完成

・外壁改修工事竣工

・プラネタリウム排煙機等の追加工事竣工

・熊本博物館分館（熊本城天守閣）の廃止

平成30年度

・「細川家舟屋形」の移築

・12月オープン予定

4

リニューアルの概要

今回のリニューアル工事は、平成22年度に先行して改修を行ったプラネタリウムを除く、全館の改修工事に至った。展示スペースと収蔵スペース拡張のため、旧理工展示室の吹抜け空間に床を新設し、上下2層化する工事等を行っている。

常設展示は「未来へつなぐ 熊本の記憶」をテーマに構成した。

1階は「熊本の歴史と文化の由来を探る」と題し、旧石器時代から中世、そして現在の町の基礎が形成された近世を経て、近代の都市・軍都へと変貌する熊本の様子を展示している。特に、国指定重要文化財である「細川家舟屋形」と「才園古墳出土品」は展示の目玉である。

2階は「熊本の自然にひそむ魅力と不思議に気づく」と題し、熊本の大地の生い立ちと身近な自然の展示を行っている。熊本の自然を理解し、楽しむための基礎知識の提供と、観覧後のフィールド観察や野外活動へとつなぐ展示のほか、熊本県博物館ネットワークセンターの収蔵品も配置した（生物の分類展示）。

人文系・自然系、双方をつなぐ分野融合展示として、藤崎台のクスノキ群を中核に据えた。1階から2階にかけての吹抜け展示で、1階には藤崎台の歴史と信仰に関する展示を、2階にはクスノキと、そこにすむ生物に関する展示を行っている。

更に、参加体験重視の空間として実験・工作室及び講堂を整備する。これまでも行ってきた「子ども科学・ものづくり教室」などの各種プログラムの開催に適した環境を整備することで、より発展的な内容の体験学習が可能になる。学芸員等による講座や講演等も充実させることができる。

また、今回のリニューアルに際して、情報システムを更新し、最新の技術を取り入れた展示資料等の解説や、より効率的に運用できるデータベースが導入される。

そして、半収蔵展示空間を設けることにより、来館者の目にふれることのなかった収蔵庫の一部が公

開され、展示室以外の部屋や学芸員の日常業務を垣間見ることができるようになる。

特別展示室1・2では、きめ細やかな温度管理が可能な空調やウォールケースの設置を行う。これらの空間は、国指定重要文化財の「木造東陵永瑛禅師倚像」や永青文庫資料等、常設展示では紹介できなかった資料をより適切な環境の中で展示していく場となる。更に、「公開承認施設」を目指し得る（一定の条件を備えた）施設・設備となるため、国宝や重要文化財を含めた展示会等も企画することができるようになる。

特別展示室3は可動壁を導入し、自由度の高い可変空間とした。これにより、自然科学系の展示においても内容の充実が図られる。

また、主な展示パネルは4ヶ国語表記とし、設備面では授乳室の設置やエレベーターの見直し等を行うなど、多くの人々に親しまれる魅力的な博物館を目指している。